

# 略年表

| 年号    | 西紀   | 主  な  こ と が ら   | 本書頁 |
|-------|------|---|-----|
| 寛永8年  | 1631 | ・大聖人第三五〇遠忌（富士年表）  |     |
| 寛永9年  | 1632 | ・日興上人・日目上人第三〇〇遠忌（富士年表）  |     |
| 寛永14年 | 1637 | ・島原の乱おこる（日本歴史年表） ※乱後幕府は禁教策をいよいよ厳酷にし、鎖国体制の完備を急いだ   | 33  |
| 寛永18年 | 1641 | 6月28日 徳川家光、大石寺へ朱印状を与う（諸記録）  |     |
| 寛永19年 | 1642 | ・前田綱紀、江戸に生まれる   | 21  |
| 正保2年  | 1644 | 6月13日 前田綱紀、三歳で加賀藩第五代藩主となる   | 21  |
| 寛文3年  | 1663 | ・加賀藩江戸詰武士若干名、江戸下谷常在寺にて、大石寺第一七世日精上人の説法を聴聞し入信、加州国元の藩士に伝う（伝聞記） ※寛文年間に金沢に初めて信徒誕生<br>・前田綱紀、江戸常在寺へ下向の日精上人より受法入信す（伝聞記） | 23  |
|       |      |   | 23  |

|       |      |  |   |  |  |  |     |
|-------|------|--|---|--|--|--|-----|
|       |      |  |   |  |  |  |     |
| 元禄10年 | 1697 |  | する  |  |  |  |     |
| 宝永5年  | 1708 |  | ・金沢町戸数は一万二〇八五軒、人口は六万八六三六人と推定される                                 |  |  |  | 99  |
| 享保3年  | 1718 |  | ・日寛上人、千葉・細草檀林二六代の化主となる  |  |  |  |     |
| 享保4年  | 1719 |  | 9月16日 大石寺第二六世日寛上人、加賀信徒福原式治に書を与う(寛伝)                             |  |  |  | 128 |
| 享保8年  | 1723 |  | 2月16日 日寛上人、加賀信徒福原式治に書を与う(寛伝)                                    |  |  |  |     |
| 享保9年  | 1724 |  | 4月 日寛上人、加賀信徒福原式治に書を与う(寛伝)                                       |  |  |  |     |
|       |      |  | ・前田吉徳、第六代藩主となる  |  |  |  | 26  |
|       |      |  | ・この頃、前田家家老・奥村氏の重臣で、稻富流の砲術師範・福原次郎左衛門の大石寺信仰が問題となる ※福原氏は寛文年間の頃から信者 |  |  |  | 29  |
|       |      |  | 1月17日 宗門改方御用番より寺社奉行永原左京・生駒右近へ、大石寺派信仰は公儀認下の宗門可否かを問合せする(要九―二八〇)   |  |  |  | 30  |
|       |      |  | 1月22日 羽咋市の日蓮宗寺院妙成寺から第一回の答申(要九―二八二)                              |  |  |  |     |
|       |      |  | 1月24日 寺社奉行両名より宗門改方御用番へ、妙成寺答申を伝達(要九―二八一)                         |  |  |  |     |
|       |      |  | 2月3日 宗門改方御用番長屋要人より寺社奉行へ、念状出される(要九                               |  |  |  |     |

|       |      |  |   |  |  |  |    |
|-------|------|--|---|--|--|--|----|
| 寛文9年  | 1669 |  | 4月3日 幕府、日蓮宗不受不施派の寺請を禁止す(富士年表) ※江戸期の法難の遠因  |  |  |  | 33 |
| 寛文11年 | 1671 |  | 8月17日 日精上人、杉本小左衛門尉へ御本尊授与 ※史料にみる金沢信徒への御本尊授与の最初                                     |  |  |  | 21 |
| 延宝8年  | 1680 |  | 3月7日 金沢法華講が結成、日精上人より講中に御本尊授与 ※初めての講結成   |  |  |  | 21 |
| 天和元年  | 1681 |  | 8月 大石寺第二二世日俊上人、大聖人第四〇〇遠忌、日興上人・日目上人第三五〇遠忌を修す(聖七六八)                                 |  |  |  |    |
| 元禄元年  | 1688 |  | 4月 幕府、新寺建立の取締りを厳重にする(富士年表)  |  |  |  |    |
| 元禄2年  | 1689 |  | ・加賀藩が徳川第五代將軍綱吉から「徳川御三家に準ずる」との扱いを受ける ※綱吉の治世(一六八〇―一七〇九)は幕藩体制の最盛期で元禄文化が栄え、加賀も隆昌期であった |  |  |  | 25 |
| 元禄4年  | 1691 |  | 4月28日 幕府、日蓮宗悲田派を禁制とする(富士年表)   |  |  |  | 33 |
| 元禄9年  | 1696 |  | 7月12日 幕府、不受不施派六八人を伊豆五島に分流する(富士年表)   |  |  |  |    |
|       |      |  | ・第五代綱紀、前年からの凶作・飢饉に対し、城中に入らず百姓の救済に専念   |  |  |  | 75 |



|                                      |   |  |  |                                    |                               |   |   |
|--------------------------------------|---|--|--|------------------------------------|-------------------------------|---|---|
| 寛延2年                                 | 寛延元年  |  | 延享3年   | 延享2年                               | 延享元年                          | 寛保3年  |   |
| 1749                                 | 1748  |  | 1746   | 1745                               | 1744                          | 1743  |   |
| 2月15日 前田吉徳側室真如院 幽閉先(金谷御殿)で没す(加能読史年表) | 4月8日 大槻朝元(伝蔵)、越中五箇山へ流刑される<br>9月12日 大槻朝元、配所で自殺 | 12月8日 加賀藩第七代藩主前田宗辰、江戸で天死(二二歳) 在位わずか一年半(加能読史年表) | 8月12日 日因上人より池田宗信へ激励のお手紙<br>6月13日 池田宗信宅、類焼にあう | 6月 加賀藩第六代前田吉徳急死(五六歳) 法号護国院(加能読史年表) | 10月 加州加藤了哲、大石寺年中行事聞書を写す(富士年表) | 6月14日 二大老(本多安房守、横山大和守)より、組支配与力家来末々<br>にまで、富士大石寺派の第三回禁制の通達出る(要九―二九九) | 春 日臻上人、細草檀林へ入檀す(聖七八六)<br>6月 加州林源太夫、大石寺五重宝塔基金として七両供養す(宝塔記)<br>※西田元信、この頃入信す |
|                                      | 79 79   | 78   | 61 60  | 78                                 |                               | 84  | 53 44   |

|   |  |                    |  |   |   |                  |   |
|---|--|--------------------|--|---|---|------------------|---|
| 寛保2年  | 寛保元年   |                    | 元文5年   | 元文2年  | 享保20年   | 享保17年            | 享保16年   |
| 1742  | 1741   |                    | 1740   | 1737  | 1735  | 1732             | 1731  |
| 4月20日 日臻上人、大石寺第三〇世日忠上人について得度し、覚浄日円と号す(聖七八六) | 4月8日 日臻上人、加賀より実父と大石寺へ登山す(聖七八六)<br>4月8日 日臻上人、加賀より実父と大石寺へ登山す(聖七八六) | ※この頃までに教線が奥能登にまで発展 | 9月13日 日因上人、能登・珠洲郡飯田村の住人柳瀬弥吉に御本尊授与<br>11月13日 大石寺第三一世日因上人御登座(富士年表) | 7月1日 加州本因妙講が結成、日東上人より講中に御本尊授与<br>3月 宗門奉行より二大老(横山大和守、本多安房守)へ、富士大石寺派の第二回国禁の上申(要九―二九八) | 6月24日 加州本門大講が結成、大石寺第二九世日東上人より講中に「現当二世 大願成就 万歳救護」の授与書きの御本尊授与 | ・日興上人・日目上人第四〇〇遠忌 | 1月23日 大石寺第三七世日臻上人、加賀に御誕生(聖七八五)<br>8月7―17日 日詳上人、大聖人第四五〇遠忌を修す(富士年表) |
|   | 53 53  | 53 53              | 44   | 52  | 52  |                  |   |

|       |      |  |    |
|-------|------|--|----|
| 宝暦6年  | 1756 | ※深刻な物価騰貴、金沢内外に餓死者が続出<br>4月 金沢に米騒動（打ちこわし）が起こり、ほどなくして銀札停止（7月）<br>6月25日 金沢の米価一石銀二貫目に達す ※藩始まって以来の最高値<br>6月15日 加州法華本門題目講が結成、日因上人より講中に御本尊授与<br>6月15日 北郷臨終一結講が結成、日因上人より講中に御本尊授与<br>4月10日 金沢で空前の大火あり、金沢城焼亡、民家一万五百八戸が焼失<br>(加能読史年表) | 80 |
| 宝暦7年  | 1757 | 7月 加州山崎源質善、御宝前銀香炉御供養   |    |
| 宝暦9年  | 1759 | 7月 加州山崎源質善、御宝前銀香炉御供養   |    |
| 宝暦10年 | 1760 | 7月3日 加州法華本門講が結成、大石寺第三三世日元上人より講中に御本尊授与  |    |
| 明和元年  | 1764 | 4月18日 日臻上人、細草檀林六〇代の化主となる（聖七八六）<br>10月16日 大石寺第三五世日穩上人、惣講頭中に御本尊授与  |    |
| 明和5年  | 1768 | ・日因上人、小川弥右衛門に御本尊授与   |    |
| 明和6年  | 1769 | ・大石寺第四七世日珠上人、小川弥右衛門の三男として加賀に御誕生（聖  |    |

|      |      |  |          |
|------|------|--|----------|
| 宝暦5年 | 1755 | 4月 加賀藩、財政立直しの一策として銀札（藩札、不換紙幣）発行  | 80       |
| 宝暦6年 | 1754 | ・小川貞性（日珠上人の父）、日因上人より十項目の指南の手紙をいただく   |          |
| 宝暦3年 | 1753 | 9月29日 加賀藩第九代藩主重靖、金沢に卒（二九歳）在位五か月（加能読史年表）<br>5月8日 日因上人、西田元信一結講に御本尊授与（埼玉・法潤寺蔵）<br>4月8日 加賀藩第八代藩主重熙卒（二五歳）在位六年（加能読史年表） | 73 68 78 |
| 宝暦2年 | 1752 | 11月11日 加州西田講が結成、日因上人より講中に御本尊授与<br>11月13日 金沢題目講が結成、日因上人より講中に御本尊授与   | 84       |
| 寛延3年 | 1750 | 3月13日 加州臨終一結講が結成、日因上人より講中に御本尊授与<br>・日因上人、五重宝塔建立之由来を記す  | 73       |
|      |      | 6月13日 加州池田講が結成、日因上人より講中に御本尊授与<br>6月12日 大石寺五重宝塔落成す（宝塔記）<br>5月 加州信徒、五重宝塔建立に三百七両二分御供養す（宝塔記）                         | 64 73 73 |

|      |      |   |
|------|------|---|
| 明和7年 | 1770 | 七九六<br>6月14日 日因上人御遷化、八三歳  |
| 明和8年 | 1771 | ・日瑋上人、大石寺第一八代学頭となる（聖七八六）<br>12月29日、加賀藩、大老より第四回目の大石寺派信仰停止の触れ状を藩内一般に出す（要九一三〇一）（加能読史年表）<br>・西田元信、加藤了哲、竹内八右衛門、松物屋市右衛門、鳥羽幸右衛門等<br>開戸の刑受く（加賀藩史料）（伝聞記） |
| 安永元年 | 1772 | ・この頃、教線は伸び、南に小松方面（加州小松講）、北に越中岩瀬方面（越中岩瀬講）に講が結成されている  |
| 安永2年 | 1773 | 夏頃、受難者の一人加藤了哲、法難の心境と逆縁流布の確信を歌に託す<br>3月 西田元信、開戸の実刑中に病死する   |
| 安永5年 | 1776 | 12月9日 開戸の実刑にあっていた加藤了哲ら五名、第一一代將軍徳川家齊出生による大赦で赦免される（加賀藩資料八一三九）<br>4月18日 大石寺第三十七世日瑋上人御登座（聖七八六）  |
| 安永6年 | 1777 | 春 日珠上人、大石寺の日瑋上人の室に入る（聖七九六）  |

|      |      |  |
|------|------|--|
| 天明元年 | 1781 | 8月10～16日 日瑋上人、大聖人第五〇〇遠忌を修す（聖七八六）   |
| 天明2年 | 1782 | ・日興上人・日目上人第四五〇遠忌   |
| 天明4年 | 1784 | 春 日珠上人、細草檀林に入檀（聖七九六）<br>春夏 飢饉 ※天明2年に始まる飢饉は全国的な大規模なもので、世に「天明の飢饉」という（石川県災異誌）   |
| 天明5年 | 1785 | 6月24日 北金深信講が結成、大石寺第三九世日純上人より講中の御本尊授与<br>10月 竹内八右衛門、開戸の刑受く  |
| 天明6年 | 1786 | ・田中長左衛門、竹内氏弁護の諫暁書を上呈<br>3月頃 竹内八右衛門、後事を高瀬順高、中村詮量、永山業山、山田真妙等に託す（要九一三〇二） 同く一巻の自筆の遺書を残す（伝聞記）<br>3月6日 田中長左衛門・竹内八右衛門他四名、割場預けとなる（要九一三〇二） 四、五日過ぎ入牢<br>4月29日 竹内八右衛門牢死す、直後の葬は数百の信徒集りて共に悲しむ |

|      |      |   |     |
|------|------|---|-----|
| 寛政3年 | 1791 | 8月23日 中村詮量、難の波及を考慮し、富士門内得信仰の改変の状を寺<br>○<br>呼び出される(要九一三〇四)   | 102 |
| 寛政2年 | 1790 | 7月2日 中村詮量ら九名、大石寺派内得信仰の儀につき宗内改方役所に<br>呼び出される(要九一三〇四)<br>8月23日 改方役人より中村詮量へ、交名書出すべき状出る(要九一三二<br>〇)<br>8月23日 中村詮量、難の波及を考慮し、富士門内得信仰の改変の状を寺 | 99  |
| 天明7年 | 1787 | 7月 日瑋上人、徳川家斉公御朱印改めのため江戸へ下向、八月帰山(聖<br>七八六)<br>6月12日 加賀藩第一〇代藩主重教卒、四六歳(加能読史年表)<br>京都住本寺第一九代住職(宗和房日安)となる                                  | 79  |
|      |      | (要九一三〇二)<br>5月頃 田中長左衛門出牢、領外へ追放 のちに本山に登り出家得度し、<br>京都住本寺第一九代住職(宗和房日安)となる  | 98  |

|       |      |  |     |
|-------|------|--|-----|
| 寛政7年  | 1795 | 12月23日 中村詮量赦免される(要九一三一五)   | 123 |
| 享和3年  | 1803 | 1月8日 大石寺第四〇世日任上人、法宥・詮量に御本尊授与<br>5月26日 日瑋上人御遷化、七三歳  | 121 |
| 文化元年  | 1804 | 春 日珠上人、細草檀林七九代の化主となる(聖七六六)   | 115 |
| 文化6年  | 1809 | 秋 日珠上人、細草を退檀し、江戸常泉寺塔中本行坊に住す(聖七九六)<br>夏 日珠上人、第二九代学頭となる(聖七九六)  | 100 |
| 文化11年 | 1814 | 4月11日 大石寺代四七世日珠上人御登座(聖七九六)<br>7月5日 加州惣講が結成、日珠上人より講中に御本尊授与  | 117 |
|       |      | 社奉行に提出(要九一三二二)<br>・8月28日、8月29日、9月1日、9月5日、9月10日の五回にわたり、<br>中村詮量呼び出される(要九一三二二)<br>9月 中村詮量、藩主に諫状を提出<br>・この頃法難の山場、多数の受難者あり<br>9月26日 中村詮量、富士門内得信仰の改変は偽りなりとして暴問投獄さ<br>れる(要九一三二三) | 113 |

